

いろいろな工作教室（令和元年8月4日開催）

講師：大橋美枝子さん（桶ヶ谷沼を考える会）、ビジターセンター細田所長

参加者：14人

1 紙ホイッスル

ボール紙を折り曲げ、ホイッスル状の形を作り、両側を指で押さえて吹きます。息がもれないように指で押さえると高く鋭い音が出ます。

最初はなかなか音が出ない人もいましたが、講師や保護者のアドバイスにより紙の曲げ方や指の押さえ方などを工夫することにより、みんな大きな音が出るようになりました。完成後、フウセンカズラの種を紙ホイッスルの中に入れると本物のホイッスルと同じ様な構造となり、より鋭い音がでました。

2 キツネ

最初にキツネの胴体と頭を2つのタカサゴユリの種の鞘（さや）をボンドで接着して作ります。尾はエンコログサを接着して作りますが、接着する個所や角度は工夫しながら、それぞれの好みによりいろいろな作品が完成しました。

また、目には色が白黒で目玉のようなフウセンカズラの実を使いますが、これも接着する箇所や角度によりキツネの表情が変わります。

3 こま

短冊状の牛乳パックを編（あ）み込んで四角い形を作ります。ポスターカラーでそれぞれ好きな色やデザインを描き、中心にツマヨウジを刺して回します。ツマヨウジがしっかり固定されていないとうまく回らないため、ボール紙を締（し）め直したり、ボンドで固定するなど工夫してみんな勢いよく回るようになりました。

4 セミしぐれ

作り方の説明の前に、講師がセミの絵を見せてセミが発音筋（はつおんきん）や共鳴室（きょうめいしつ）など器官を使って鳴く（音を出す）仕組みについての説明をしました。この笛は、竹筒の切り口にガムテープをピンと張って太鼓状にしたところへ、糸を通して、この糸の先を輪にしてわり箸にひっかけたもので、わり箸と糸がこ擦（す）れて出る音を竹筒へ共鳴（きょうめい）させて大きな音を出します。この笛は作り方が複雑でしたが、みんな間違いなくできていました。でき上がると一斉に糸を回して音を出し始め、歓声が上がり、ビジターセンターが本当のセミしぐれに包まれましたような雰囲気（ふんいき）になりました。

1 紙ホイッスル



2 キツネ



3 こま



4セミしぐれ

